

～3年「公民探求A」の研究授業を行いました～

9/25(月)に教育課程モデル事業に関わる研究授業を行いました。今回は、本事業の担当者によるものではなく、本事業に関わる提案授業ということで行いました。そのため、運営指導委員はお招きをしなかったものの、校外から県教委関係者も含め6名の先生方にもご参加いただきました。

今回の提案内容は、教育課程実践モデル事業の推進に関わって、単元構成や授業の中での発問(学習課題を含む)をどう意識するかということでした。松江東高校では、本年度の重点目標である「生徒の主体的な学びの育成」の達成にむけて、「2つの問「発問」と「作問」を授業改善の共通目標に据えています。発問(学習課題を含む)を意識することが、本事業の展開においてどのように関連しており、今後どう意識し位置づけていくべきか、考える契機とするためのものでした。

社会科の授業の3形態
※島根大 加藤教授レジュメを改編

感性で見抜く

・社会を「知る」ための社会科授業
個別の社会的事象(例. 捕鯨問題)に対して「**どうなっているのか**」と問いかけ、資料から必要な情報を読み取り、それをまとめる → これだけでは資料活用の技能の表現

疑問をもつ

・社会が「分かる」ための社会科授業
個別の社会的事象に対して「**なぜか**」と問いかけ、その社会的事象の意味や意義の解釈、個別の社会的事象相互の関連の説明をしながら、わかったことをまとめる

課題の解決へ

・社会に「生きる」ための社会科授業(社会参画の視点)
社会的事象に対して「**どうしたらよいか**」と問い、課題解決の方法や方策を判断する → **社会的事象間のネットワークが**でき**社会認識内容が豊かになる** → **価値判断**ができる



現代社会の授業において、生徒自身が社会情勢に興味を持ち、現代の社会情勢に対してより主体的な態度で臨めるようするには、多くの課題があります。そのため、自己の意見を表明する活動をペアワークの形で取り入れたり、時事的な話題を適宜授業で活用したりするなどして工夫はしているものの、授業をわかりやすく教えていくだけでは、主体的な態度の育成はままなりません。だからこそ、学習課題をしっかりと立て、それをみんなの問いとして考えるようにしていくことが求められていると思います。

今回の授業参観の視点は、「学習課題(MQ)やSQの設定は、本時の目標を達成するうえで効果的であったか」において、そのことを中心に意見交換等を行いました。

～学習指導案(抜粋) 授業者 山崎 誠～

1 単元名 「国際経済のしくみと動向」

2 単元の目標

国際経済の動向や諸問題に対する関心を高め、国際協力の必要性及び国際組織の役割などについて多面的・多角的に考察できる。また、それらに関する知識を身に付け、日本の果たすべき役割について考察し、考察した過程や結果を適切に表現できる。

3 単元の指導と評価計画(本時に関わる部分のみ)

時数 6時間	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
	① 対立と協調の時代					
	【ねらい】近年のサミットでは何が中心的な課題として取り上げられているか関心を持たせる。あわせて、EPA締結の賛否について関心を持たせる。					
2時間	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会が協調した経済政策をとり行うことがなぜ重要か、その背景について関心を持つ。 FTAやEPAの締結がどのように進められているのか、また、それによって何がもたらされるのかを理解するとともに、その意義について関心を持つ。(本時) 	●	●			<ul style="list-style-type: none"> なぜWTOでの合意が停滞し、国と国、国と地域での結びつきが重視されてきているかを理解できる。 <p>【評価方法】 観察、発言、ノート</p>

4 本時

(1) 本時の目標

FTAやEPAの締結がどのように進められているのか。また、それによって何がもたらされるのかを理解するとともに、その意義について関心を持つ。 【関心・意欲・態度】

(2) 学習課題

【MQ】 日本がEU(欧州連合)とEPAを結ぶことにはどんな意義があるのか。

【SQ】 ・なぜドーハ・ラウンドが暗礁に乗り上げているのか？

・なぜ韓国は、日本とEUのEPA締結に危機感を持っているのか？

・日本の自動車メーカーは、なぜ関税の高い韓国への輸入台数を増やせているのか？

※「知識の構造図」と「問いの構造図」を踏まえて、MQやSQを設定した。また、授業の流れとしては、学習課題をすぐ提示するのではなく、「つかむ→立てる→考える(個人・ペア)→深める」を意識した。

【協議等で出た意見】 *原文を一部変えています。

- ・ICT機器ではなく、模造紙を使つての提示は、掲示位置や掲示時間等の配慮の点からも有効であった。
- ・閉じた質問とペアワーク等でじっくり考える質問(SQ)の使い分けが、重要性の理解の上で有効であった。
- ・ペアワークで話す機会を多く持つことは、生徒が意見を出しやすい雰囲気醸成したと思う。
- ・発問の仕方に工夫があつて、学んだ知識をどう生かして生徒が考えていくべきか流れがわかりやすかつた。
- ・「なぜ?考えよう」「学習課題」などのマグネットカードの使用が、考える意識を深めていた。
- ・内容が盛りだくさんであったため、生徒が考えを深めたりする時間が不足していたように思う。
- ・与えられた資料の中で必要な資料を取捨選択する能力の育成という意味で、資料提示は有効だった。
- ・EUとの関係に、韓国の立場を入れることで多角的な思考を可能にしていたように思う。
- ・身近な話題と関連付けられることが現代社会では大事になると思うが、自動車が適当であったかどうか疑問。
- ・生徒の発言を受け入れたり具体的にほめたりする場面(言葉)が多くあつた。

【コラム】～授業研究の目的について～

平成23年「第2回中学校社会科教科指導リーダー養成研修」島根大学 加藤寿朗教授の講義より作成

授業理論の実践をするのが研究授業であり、実践の理論化をするのが授業研究である。つまり、授業研究では、すぐれた教育実践を創造するために、教師の意思決定の手がかりや根拠となるデータ、理論(考え方)を提供し、その妥当性について吟味、検証するものである。教育活動は、教師の意思決定の連続である。授業研究では、その意思決定が妥当であったか検証する場である。

<授業研究の際の大きな課題> … 授業者の意図が見えにくいことが多い

授業者がなぜそのような授業構成、指導計画にしたのかが書いていない学習指導案が多い。そのため、教科内容や問題点の指摘ばかりの授業研究になりがちである。原因が究明されないから、改善点が指摘されない。

<参観者の役割>

授業がどのような意図に基づいて何がなされたか。(何がなされ、何が考えられたか)を見る。

その問題点を把握し、その原因を究明したうえで、改善策を提言する。

<授業研究を効果的にしていく視点>

授業研究の在り方を3つに分類整理すると…

- ① 目標指向的な授業研究
授業を公開し、授業理論を検証する。授業理論が、参加者の改善への糧となる。実践を理論化していくことが大切。
- ② 問題指向的な授業研究 *この場合、生徒個々の実態把握が学習指導案に盛り込まれる
生徒の実態からみて問題(課題)であると考えられる内容について、原因を考え対策を考えていくもの。
- ③ 開発研究のための授業研究
教材やカリキュラムを試行的に開発していくことを主眼とするもの。例えば、郷土資料の教材化など。

研究授業においては、授業内容・教科内容はもちろん大事だが、その理論について詳述されている学習指導案の検討が大事であり、その学習指導案を作成する段階において、教科会などで話し合っていくことが、この事業をより発展させていく鍵になると思われる。